

太平洋クロマグロの加入量水準速報(2014年9月)について

太平洋クロマグロの加入量水準速報(2014年9月)を公表いたします。

概要

水産庁は、2013年7月及び2014年7月の北太平洋まぐろ類国際科学委員会(ISC)の勧告(※1)に基づき、独立行政法人水産総合研究センター(以下「水研センター」という。)と協力し、太平洋クロマグロの加入(※2)動向を迅速に把握するためのモニタリングを強化しています。2014年からは、その年に生まれた(南西諸島海域では5～6月中心)太平洋クロマグロの加入量水準について、9月末、12月末、翌年3月末、翌年10月末の計4回、モニタリングの結果に基づく予測を公表することとしています。

(※1)ISCの管理勧告(抜粋)「親魚資源量が低水準にあること及び加入の不確実性を考慮し、加入動向を迅速に把握するための、加入モニタリングを強化すべき。」

(※2)個体が成長して漁業の対象に加わること。

2014年9月末時点の予測

「2014年の南西諸島海域生まれの加入量水準は、漁獲状況の悪かった2012年(過去61年間で8番目の低加入)を下回る可能性が高い。」

詳しい内容については水研センター作成の添付ファイルを御覧ください。

なお、次回の速報は12月末を予定しています。

＜添付資料＞(添付ファイルは別ウィンドウで開きます。)

[太平洋クロマグロ加入量モニタリング速報\(2014年9月末\)\(PDF:156KB\)](#)

— お問い合わせ先 —

増殖推進部漁場資源課
担当者: 国際資源班 西田、井須
代表: 03-3502-8111(内線6803)
ダイヤルイン: 03-6744-2380
FAX: 03-3592-0759

(具体的な内容について)
独立行政法人水産総合研究センター 国際水産資源研究所
くろまぐろ資源部 島田、大島
電話: 054-336-6032

太平洋クロマグロ加入量モニタリング 速報(2014年9月末)

独立行政法人水産総合研究センター
国際水産資源研究所

- 太平洋南(※1)及び九州西(※2)において設定した曳縄モニタリング船の、7～8月(南西諸島海域で生まれたものと推定)における漁獲状況をもとに分析。
- 太平洋南における2014年のCPUE(漁獲努力量当たり漁獲量)は、2013年の40%、2012年の71%。
- 九州西における2014年CPUEは、2013年の20%、2012年の35%。
- 2011～2012年の加入量水準は歴史的な平均値より低く、2012年は過去61年で下位8位の低加入と評価されている。太平洋南と九州西における曳縄モニタリング船の2014年のCPUEは、2012年よりも低い。

(※1)太平洋南は、宮崎、高知、和歌山、三重(高知以外は2014年から調査開始)

(※2)九州西は、長崎

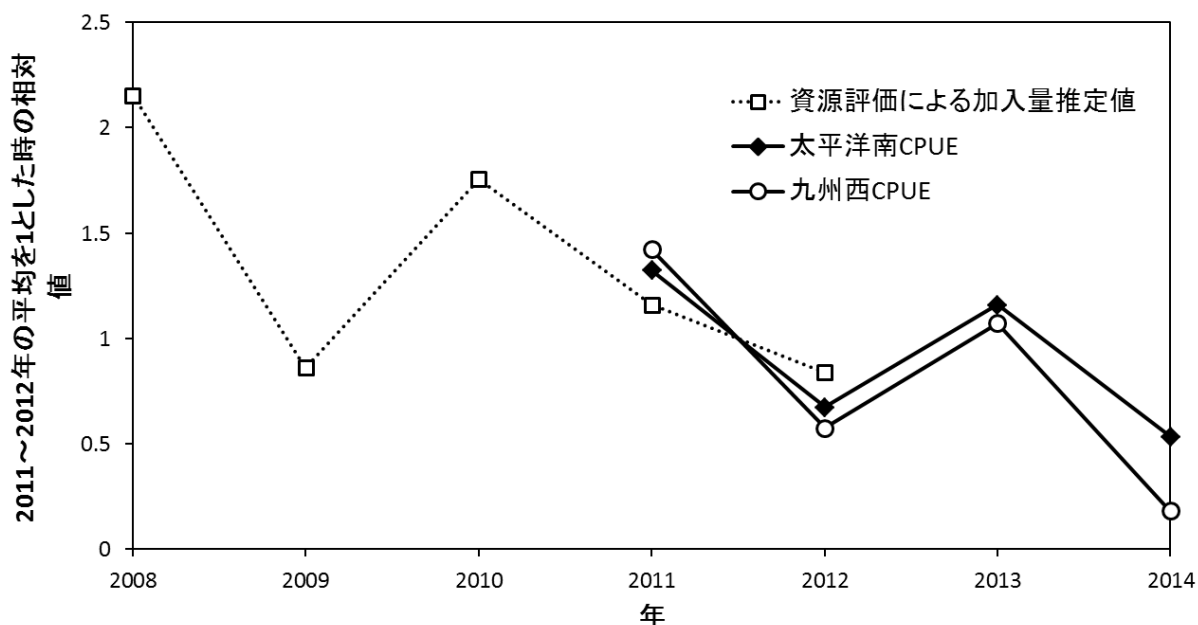


図 CPUEと加入量の相対値

- これらの結果から、2014年の南西諸島海域生まれの加入量水準は、漁獲状況の悪かった2012年を下回る可能性が高い。
- 今後、日本海生まれ(6月以降)についてのモニタリングデータも追加する。
- 次回の速報は、12月末に公表の予定。